

道 新世紀に

奥野代議士へのメッセージ

—アフガニスタンをなぜ支援するのですか。
AMDAは必要とされればどこでも行きます。

①死者100人以上②アジア太平洋地域③AMDAが行く④効果がある⑤現地に協力団体がいる⑥できれば新聞などで災害が掲載されている⑦原則で救援活動をするかどうか判断します。今はたくさん日本のNGOがアフガニスタンに行っていますが、活動を開始した当時は「シヤワール会」と「灯台」とAMDAの3団体ぐらいだった。この3団体は今後も撤退しないでしょう。

■存在認める

—ずっと支援を必要としてきた地域だったのでですね。

—「あなただけを必要としていません」「あなたのことをお忘れません」ということです。

私たちの平和の定義は「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる」です。

多様性の共存希求

りませんでした。日本の問題は、人権とは何かを定義できないから身近な教育にも応用できないことです。平和といながら、何が平和かわかっていないから平和教育もできない。人権、反差別、平和とい

重要なことがあります。反差別とは公正であるというところ。差別とは意欲も能力もあるのに、機会を与えられないから自己実現できないことです。日本ではこれをほっきり定義せずに情緒的な教育だけやっていると。結果が「優しければい

い、ノーと言わなければいい」という態度。そして「間違いがあつたら社会的生命を失うから触れたくない、見たくない」ということになるんです。

■世界的差別

—これはアフガニスタンの問題にどう当てはまりますか。
アフガニスタンのことを世界中は忘れていたわけでしょう。この国の基本的な人権を世界中が無視して、中に住む人の人権をたれも考えていない。米国の爆撃で初めて「ああ」と思った。そして、以前から経済封鎖をしていました。一生懸命仕事をする能力があるのに機会をやらぬという、世界的な差別をしたということ

です。

暫定政権が成立したのには、部族社会の力を超えた米軍という力の存在と、世界からお金が入ってくるという期待感があるからです。この二つがみんなを静かにさせている。問題はいつこの力の存在が崩れるかです。一番心配なのは、いつまでアフガニスタンを注目されているか。米国の関心が薄くなるに当たるとき、イラクを攻撃したときにアフガニスタンは忘れ去

られるだろうと私は考えています。

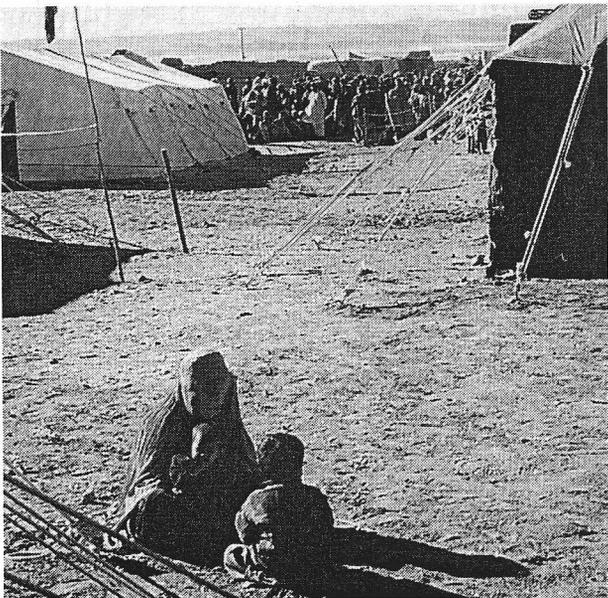
■方法を模索

—AMDAが活動する価値とは何ですか。
多国籍NGOであるAMDAのスタッフには経典の民も非経典の民もいる。そして、ポシティブリストの日本社会を理解しながら、ネガティブリストである緊急救援活動をしている。これが私たちの価値です。

究極の目標は多様性の共存です。もの見方、考え方が違う人たち、文化、民族、宗教がそれぞれどうやって共存できるかというのがこれからの活動の使命ですね。

経典の民と非経典の民がいかにお互いのメッセージを共有し、ネガティブリストとポシティブリストが考え方をどう折り合わせていくか。多国籍医師団というコンセプトと緊急支援という枠の中で、新たな方法論を開発しようとしているんです。21世紀の日本で、大いにお役に立てるのではないかと考えています。

日本の国際貢献／目標



真提供・AMDA